人権啓発シリーズ

人には自分らしくしあわせに生きる権利があります

しあわせに生きたいと思っても
本人の責任ではない理由で差別され疎外され
生きづらくなることがある

LGBTQ　性的マイノリティ
マイノリティは少数派　マジョリティは多数派
はっきりと2つに分けられるものではなく
どういった視点で見るかで境界は変わる
だからみんなある時は多数派でも
別の時は少数派であることも
それなのに多数派視点に立つと
少数派の生きづらさに気づきにくい

性別
身体の性　こころの性　服装やしぐさの性
そして、好きと思う性などが組み合わさって
多様な性になる
誰かを「好き」になることはとっても尊いこと
そしてこの「好き」もみんな違う

一人として同じ人はいない
みんな違う
たった一人の人

私たちにできることはなんでしょう

自分らしく生きるために
自分と向き合い自分を大切に
私たちのまわりにも
色々な生きづらさをかかえている人がいる
このことに気づき
決めつけや思い込みはやめ理解し合うことが大切
みんなが笑顔でいるために

廿日市市

カミングアウトされたら

ありのままの自分を隠し、偽らないといけない苦悩は、本人以外にはなかなか理解できないことです。また、信頼をしている人であればあるほど、その反面、理解されなかった場合への恐れが大きいと言われています。性的指向や性自認などを自分の意思で自分以外の人に伝えることを「**カミングアウト**」と言います。もし、カミングアウトされた時は、戸惑うかもしれませんが、その想いをしっかりと聞き、受け止めることが大切だと言われています。一緒に考え、応援・支援する人「**アライ**※5」になりましょう。

※5 **アライ**：支援者・同盟などを意味する英語の allyが語源。LGBTQ(+)などの性的少数者を理解し、支援する人、人達。

アウティングはぜったいにしない

当事者**本人の同意無く**、性的指向や性自認などを他の人に言ったり、SNS等で公にすることを**アウティング**といいます。アウティングは、「**重大な人権侵害**」です。

カミングアウトは、例え家族や親しい友人であっても、とても難しいことです。「自分に言ってくれた」からとか、「偶然知ってしまった」からといっても、そのことは公表されたわけではありません。

他の人に伝える必要がある場合は、必ず本人に確認し、同意なく他の人に伝えることや、勝手に公表することのないように十分に注意が必要です。

LGBTに関する相談窓口

エソール広島（公益財団法人広島県男女共同参画財団）では専用電話相談を開設しています。
LGBTに関する研修を受けた相談員があなたの思いや考えに寄り添います。

LGBT電話相談 専用電話　**(082)207-3130**　相談無料　相談は匿名で秘密厳守です

悩んでいたら相談してみませんか？
- 自分の性的指向や性別に違和感がある
- 自分の性別がはっきりとわからない

相談実施日　毎週 土曜日（祝日休み）
時間　10時から16時

※ご家族、パートナー、支援者の方からの相談も受け付けています。

［表紙］ 壱と千

写真家川本理壱、ことば作家CHIHIROによる作品制作ユニット。「日常のしあわせに気付くきっかけをつくる」をコンセプトに活動。2022年より広島県内23市町を巡る作品展「ここでみつけたちいさなしあわせ」を開催中

インスタグラム

川本　理壱（廿日市市出身）
女性として生まれ、25歳から男性として生き、手術をきっかけにこれからの生き方を見つめ直し、カメラに出逢う。現在は商業写真を生業としながら、性別に悩んだ自身の経験をもとにした講演会活動も行う。

CHIHIRO（東広島市出身）
編集者の道へ入るものの、体調を崩して退職したことを機に自分を見つめ直し、「本当に良いものを良いと伝える仕事をしたい」という想いに行き着く。2022年から「土とことば」の屋号でフリーライターとして活動中。

廿日市市の取組

パートナーシップ宣誓制度
宣誓者 2組（R5.12現在）

編集・発行　廿日市市生活環境部人権・男女共同推進課　TEL 0829-30-9136（令和6年3月発行）

全国中学生人権作文コンテスト　法務副大臣賞受賞　広島県最優秀賞　広島法務局長賞

我が家の人権問題

廿日市市立中学校生徒

　※1LGBTQ、先日の広島サミットでは、ようやくこの議題が取り上げられ、世の中では、理解が進みつつあるようだ。そんな中、私の家では妹がその当事者になり、そのことについて考える機会が増えた。

　妹は、もともと可愛いものより格好いいものが好きだった。

（中略…様々な彼女の行動により）私はやっと彼女がLGBTQに当てはまると理解した。それまでの私は妹の性自認が男だと気付けていなかった。

　次から次へと私たちが驚く行動をし、今までの妹を知っているからこそ、それらの行動にショックを受け、元に戻って欲しい、と思ってしまった。

　私は、今までLGBTQに対する偏見はないと思っていた。しかし、いざ身内がそうなると否定的なことを言ったり考えたりしてしまうことに気が付いた。例えばテレビに性的マイノリティの人が出ていても変だとは思わない。むしろそういった人たちを批判する人たちを許せないとさえ思う。ただ、それが身内だと、きっと気の迷いだろう、元の妹に戻って！と思ってしまう。このようにして私も家族も、妹を知らず知らずのうちに傷つけ、追い詰めていたと思う。私は、差別なんてありえないと思っていたのに、一番身近な家族にそんなことを思ってしまった。そして、そんな自分にとても驚いた。「そのままでいいよ。」と受け入れるべきなのに。性的少数者が生きづらい理由の一つは、こうして家族からも否定されることがあるからだと理解した。

　私は妹のことでLGBTQの問題を身近に感じることができた。おそらく世の中には私のようにLGBTQのことを理解している〝つもり〟の人がたくさんいると思う。しかし、自分の周りにそういった人が現れたら、否定的なことを言ったり思ったりすると思う。それは仕方のないことかもしれない。ただ、それは私のようにその人を傷つけてしまうことになる。そんな理解は〝つもり〟をなくすために、まず、自分自身や身近な人がそうだったら、といろいろな想像をしてみてほしい。

　世の中には、LGBTQに限らず、あらゆるマイノリティの人たちが生き辛さを抱えて暮らしている。妹も家で、学校で、一日中生き辛さを感じている。私は、SDGsでもうたわれた「誰一人取り残さない世の中」になることを願い、自分自身そういった人たちに起こる問題を理解し、私の正しいと思う行動をしていきたいと思う。そして、皆が同じような気持ちで、少しずつでも世の中が変わって、家が、学校が、会社が、生き辛さを抱えた人にとって優しい場所になっていってほしいと思う。

（作文は、ご本人の了承の上一部変更しています。）

全国中学生人権作文コンテスト

主催　法務省及び全国人権擁護委員連合会

応募総数　761,947名（6,494校）

用語説明

※1 **LGBTQ(+)**　エルジービーティーキュー(プラス)　生まれながらの性別に違和感がある人や同性を好きな人を総称する表現の1つ。性的マイノリティ(性的少数者)とも。性のあり方は多様で、他にも様々な表現があります。

※2 **カミングアウト**　自分の意思で、こころの性別(性自認)や好きだと思う性別(性的指向)について、自分が性的マイノリティであると自分以外の人に打ち明けること。

家族から社会へと拡がる人権意識の大切さ

広島修道大学教授　河口　和也さん

　LGBTQ+という言葉はずいぶん浸透した。しかし、浸透度に見合うほど、社会では性的マイノリティが身近にいるとは思われていないだろう。もしかすると家族にとっては、もっとも「遠い」存在であるかもしれない。家族のなかに性的マイノリティがいることは、容易に受容できるものではない。むしろ家族の「幸せ」を願うからこそ、できればその家族に性的マイノリティであってほしくないと思うのだ。しかし、性自認や性的指向は、自分で変更することはできない。当事者は、家族のことを思うからこそ、※2カミングアウトできなかったり、しないでおこうと決断する。「家族に迷惑をかけたくない」とも。少なくとも私自身が同性に性的意識を向けていると気づいたときには、家族には一生そのことは言うまいと決めていた。このことは本人の生きづらさに結びついていく。

　こうした状況の中で、家族からの理解や支援を得られたなら、これほど当事者にとって心強いものはない。社会において家族というものは異性愛で※3シスジェンダーの集団である。つまり、性的マイノリティは、自分がそうであると意識したとたん、家族というマジョリティのなかで孤立する。であるからこそ、性的マイノリティが社会で生きていくためには、いちばん身近な家族からの支援が、生きていく力を与えてくれるものとなる。隠し事や偽りなく、自分らしく生きていく力だ。

「権利」とは、自分らしく生きていく生活を守ってくれるものともいえる。とはいえ、この権利という考え方は、家族の生活ではあまりにも堅苦しく響くこともあるだろう。けれども、人にはみな人権が賦与されており、それは家族のなかでも尊重されるべきものだ。ひとりひとりの人権を尊重することは、社会においても、そして家族においても大切なことである。

　LGBT理解増進法が成立し、性の多様性に関する理解を社会が推し進めていくことが法律で明記された。しかし、これはそれほど簡単なことではない。人権や権利の尊重の前に、理解することが必要となるが、自分とは異なる性的指向や性自認については、経験がないことから、すぐさま理解できたということにはならない。また、性の多様性については、「知ったかぶり」がもっともよくないことでもある。自分には性的マイノリティの友人がいるから、「自分は差別しないし、性の多様性についてはもう十分にわかってるよ」という感覚が、さらなる固定観念を生み出すこともある。

　カミングアウトされた家族にとってそれは初めての経験であり、知識も相談できる人もいないことで受容が難しい場合もある。しかし、知らないことが悪いことではなく、それはむしろ性的指向や性自認について知ること、そして理解することへの第一歩になる。こうした理解は、家族という単位を超え出て、より広い社会のなかで同じように拡がっていくことが望まれる。家族のなかに性的マイノリティがいるということは、けっして否定的な経験ではなく、むしろ社会における性的マイノリティの理解や直面している様々な問題の理解や解決にも通じていくのである。社会の人権問題に至る出発点は、家族の人権問題なのである。

河口　和也
広島修道大学 人文学部教授
専門分野　ジェンダー、セクシュアリティ、社会学
主要研究テーマ　現代日本社会における性をめぐる諸問題に関する研究

用語説明

※3 **シスジェンダー**　生まれながらの性別(生物学的性)と、こころの性別(性自認)が一致している人。

※4 **(性的)マジョリティ**　生まれながらの性別とこころの性別が一致している人や、異性を好きな人。多数者。